

東海岸地域サンライズ推進協議会がお届けする

# この夏、この秋注目の！4町村のイベントをご紹介します！

青い海と豊かな歴史が息づく沖縄本島東海岸に連なる与那原町・西原町・中城村・北中城村。その4町村が連携して発足した「東海岸地域サンライズ推進協議会」が、各地域から自慢のイベントをお届けするコラボレーション広報企画です。町村の枠を超えて盛り上がる東海岸を、ぜひお楽しみください！



8/15(土)  
16(日)

与那原町

## 与那原大綱曳まつり

会場 御殿山青少年広場(綱曳)、  
与那古浜公園(まつり)

沖縄三大大綱引きの一つに数えられる「与那原大綱曳」は、450年以上の歴史を誇る伝統行事です。雄綱と雌綱を結合させ、その上に豪華な衣装を纏った「支度」が乗り、綱を地面に叩きつける迫力は圧巻です。



▲与那原大綱曳  
まつり特設ページ



お問い合わせ ☎ 与那原町ブランド推進課 098-945-5323

9/20(日)

西原町

## 第19回 さわふじ青年エイサー祭り

会場 イルカ公園(西原町東崎都市緑地)

西原町内の青年会・エイサーや創作太鼓の団体が一堂に集結し、各地域の文化や芸能を披露！ゲスト団体の演舞もあり、西原町から若者のパワーを発信します！

西原町青年連合会  
インスタ▶



お問い合わせ ☎ 西原町産業観光課 098-945-4540

11/7(土)  
8(日)

中城村

## 第15回 中城護佐丸まつり

会場 中城村公共駐車場  
(護佐丸歴史資料館隣)

子どもたちの元気なダンスや伝統芸能、夜空を彩る花火が魅力のお祭りです！



お問い合わせ ☎ 中城村産業振興課 098-895-2163

10/10(土)

北中城村

## 第41回 北中城まつり

会場

しおさい公苑

村民による執心鐘入りや村の伝統芸能、各種団体などによる演舞が楽しめます。最後には色鮮やかな花火が打ち上げられます。

10/11(日)

## 北中城村 青年エイサーまつり

村内の青年会を中心にエイサーを披露します。パチさばきや隊列でそれぞれの特徴を出し、地謡の三線と息を合わせた演舞は見ごたえ抜群です。



お問い合わせ ☎ 北中城村企画振興課 098-935-2269

### 「東海岸地域サンライズ推進協議会」とは??

与那原町・西原町・中城村・北中城村が一緒になって、東海岸地域のまちづくりと地域の活性化に取り組む協議会です。町村の垣根を超えて広域で連携し、地域の魅力を高める情報発信や観光・スポーツ振興などを展開して東海岸地域の個性と賑わいのあるまちを目指しています。



## 健康だより



親子通園事業「あゆみ」は、親子が一緒に「あそび」を楽しみながら、親子関係を深める場です。子育ての中で、「落ち着きがない」「ことばが遅い」「かんしゃくが強い」など、様々な不安や悩みを抱えていませんか？「あゆみ」では保育士、保健師などの専門スタッフが保護者の方の気持ちに寄り添い、より良い親子関係を築けるようにサポートします。お子さんの小さな集団での様子を見守りながら、日々の成長や愛おしい瞬間と一緒に感じられる空間です。

【対象者】西原町に住所のあるお子さんで「育ち」について困り感のある、未就学のお子さんとその保護者

### 【あゆみ利用までの流れ】

①1歳半健診、2歳児歯科健診、  
3歳児健診を受診する。

②健診事後教室親子ひろば  
「えくぼ」に参加する。

③保健師と「あゆみ」を体験する

④「あゆみ」の利用申請

⑤利用前の初回面談

⑥「あゆみ」通園スタート

※「あゆみ」は療育施設ではなく、親子が向き合い、関係をじっくり深めていただく場です。

※「えくぼ」は、親子で一緒に「あそび」を楽しみ、小集団の中でお友だちとの関わりを体験していき、子育て悩みを抱える保護者さんに寄り添い育児サポートをする場です。

※各健診日程や親子ひろば「えくぼ」の日程については、西原町ホームページをご確認ください。

お問い合わせ ☎ こども課 母子保健係 098-945-5311



▲詳しくはこちら

## 文化財コラム

## 町内で発見された遺跡 —令和7年度—

近年、本町では宅地開発等に伴って遺跡の発見が相次いでいます。今年の5月にも新しい遺跡が一つ確認されており、現時点で本町内の遺跡は37箇所となりました。

今回は、令和7年度に発見された「棚原古道跡」(図1)、「津花波村跡」(図2)の2つの遺跡について紹介します。

「棚原古道跡」は、字棚原に所在する町指定史跡「棚原石畳道」に近い場所で、下水道整備工事中に発見された遺跡です。石畳の一部と思われる石造物(写真1・2)や近世から近代にかけての沖縄産の陶器の欠片や屋根瓦片などが確認されました。工事予定箇所を確認された石畳は、過去の水道工事で一部壊されていましたが(写真1中央)、約200年前のこの地域における道路整備、交通事情などを知る上で貴重な交通遺跡と考えられます。

もう一つの「津花波村跡」は、グスク時代の土器などが地表面で散見される「津花波古島」と呼ばれる遺跡の近くで、住宅建築工事に伴う試掘調査時に発見された遺跡です。試掘調査では、掘立柱建物の柱が立てられていた穴(近世～グスク時代)と考えられる直径20～40cm台の円形状の薄い色から濃い色まである黒褐色の土(写真3・4)が約30基確認されました。また、グスク土器や青磁などの約500年前の遺物が出土する土層も確認されました。このことから、少なくとも約500年前から人々がこのあたり一帯を生活の場として利用していたことがうかがえます。

ちなみに、近くの「津花波古島」の範囲内では発掘調査を行ったことがなく、今回の調査地点との直接的な関係性が不明であったことから、今回の調査地点一帯は新しく発見された遺跡「津花波村跡」としました。

今回紹介した2つの遺跡のように、本町内の地下にはいまだ把握されていない昔のにはらの様子がうかがえる遺跡が数多く残されていると考えられます。



お問い合わせ ☎ 文化課 文化財係 098-944-4998